

## 新年、本校生徒「税の作文」2編紹介

校長 野口祐人

新年明けましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になり、ありがとうございました。本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、2023年のスタートは、昨年末に表彰された本校生徒2名の作文を紹介したいと思います。税の大切さはもちろん、家族愛、人と人との絆についても考えさせられます。ぜひ、ご一読を。

### 《 幸手市長賞 》

#### 支えあう税

3年

今から5年前、私の父は病気を患いました。その頃の父は今よりも仕事が忙しく、朝早くから夜遅くまで働いて、体も痩せてきていました。

ある日、父はいつものように仕事へ行きました。ですが、その日はあきらかに様子がおかしかったので、母が病院へ連れて行きました。医師に診てもらったところ、「脳膿瘍」という病気でした。脳膿瘍とは、脳の中に膿がたまった状態のことで、頭痛、吐き気、けいれんなど様々な症状を引き起こす病気です。父の場合は病院へ行った次の日に手術をし、2か月ほどの入院が必要でした。この状況になったとき、母は、国民医療費の保障制度にとっても助けられたと言っていました。

一つは、「高額療養費制度」です。これは、いくら治療を受けても、決められた上限の金額以上は国が保障してくれる制度です。私の父は手術をした後、毎日様々な薬を使い、2か月ほどかけて徐々に回復することができました。

もう一つは、「傷病手当金」です。これは、病気やけがで会社を休んだとき、平均の月給の三分の二を保障してくれる制度です。このおかげで、私たち家族は今までとほとんど同じように、安心して生活することができました。

しかし、この制度が当たり前ではありません。ほかの国では医療体制が発達しておらず、手術を行うのにもためらってしまうことがあるそうです。でも、日本は税金による医療費の保障制度があるおかげで、多くの人々の命が救われていることを改めて感じました。私の父は無事に退院し、今は後遺症もなくとても元気に暮らしています。いろいろな場面で耳にする「税」、それは人々を支えあい、笑顔にする大切なものだと思います。

最近では、コロナウイルスに感染し、重症化して入院する方が増えています。このコロナ禍だからこそ、税で少しでも多くの人を元気にし、国をよくするためにできることがたくさんあると思います。私は今後、税の使い方についての理解をさらに深め、日本の制度を支えられるようになりたいです。

### 《 埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞 》

#### 命の寄付

3年

母がアナフィラキシーで倒れた。体は震えていて、息をするのも辛そうだった。母の初めて見る姿に僕は何もできず、時間だけが過ぎていった。「救急車、救急車」と弟は大声で叫び、それに応える形で父が119番通報。すぐに救急車が来て母は病院に運ばれた。日本は数少ない救急車を無料で呼べる国。母が倒れた日、僕は初めて救急車を無料で呼ぶことができることに心から感謝した。

僕は、学校での授業で「救急車の有料化は賛成か反対か」をテーマに討論をしたことがある。このときはまだ、救急車で運ばれたこともなかったし、救急車を呼んだこともなかったので「税金が少なくなるならいいんじゃない」と軽い気持ちで賛成派として討論に参加した。日本では、救急車の運用は行政サービスのひとつとされていて、その費用は税金で賄われている。討論で相手を納得させるためには、あまりにも救急車の税について知識不足だった僕は、インターネットを使って調べることにした。救急車が1回出動するのに必要な費用は、諸経費込みで約4万5千円。この費用には自治体の税金が使われ

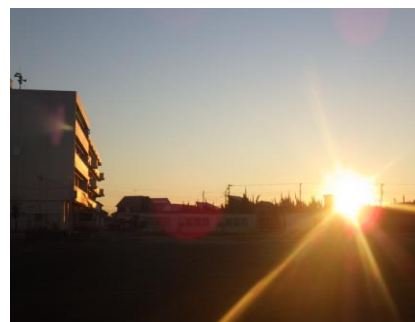
れている。総務省消防庁の「令和3年度の救急出動件数等(速報値)」によると、2021年の救急目動車の出動件数は619万3663件。考えるだけで、ものすごい金額である。「こんなにお金がかかるなら早く有料化にしちゃえばいいのに」当時は正直こう思った。母が倒れてこの事を思い出したらとさせられた。実際に母が救急車で運ばれたとき「有料化にしちゃえばいいのに」なんて1ミリも思わなかった。むしろ無料でよかったと心から感謝した。もし、救急車が有料だったら母は救急車を呼ぶなと言っただろう。無料だったからこそ母の命は助かったのだと思う。税金には思いやりがつまっている。母が乗った救急車の費用、4万5千円は誰が納めた税金なのかなんてわからない。誰かが納めた1000円、100円、1円が集まった4万5千円かもしれない。きっとこの税金を納めた人たちは母を助けようと税金を納めた訳じゃない。しかし、一つの命が救われたことは事実で、きっとほかにも税金のおかげで助かった命が何十万とあると思う。

税金を納めるとは命に寄付をすることだと僕は思う。誰に届くかもわからない1円を税金という形で納めて、誰かの命を救っている。その救った命を今度は違った形でより良い人生になるよう支えていく。美味しいご飯が食べられる。勉強ができる。仕事に就ける。このような様々な事が当たり前に行える日本。しかし、世界には当たり前が当たり前ではない人々や国が多くある。人はこのような人々や国を助けるため寄付をする。日本が当たり前を当たり前に行えるのは税金という名の寄付が毎日行われているからだ。日本人一人一人が税金を納めて、誰かを救い、誰かの人生を支えている。税金は命への寄付。日本人の象徴だ。



- 10日(火) 始業式
- 11日(水) 給食開始
- 12日(木) 二年生4時間授業 一、三年生①②⑤⑥③④の授業
- 13日(金) 二年生スキー教室～15日(日)
- 16日(月) 一年生4時間授業 二年生振替休日
- 17日(火) 一年生スキー教室～19日(木) 二年生振替休日
- 20日(金) 一年生10時20分登校
- 22日(日) 埼玉県内私立高等学校受験中心日
- 26日(木) ふれあいデー
- 31日(火) 一年生性に関する学習講演会

### 令和5年初日の出



### 学校保健安全委員会開催

1月10日(火)、第3学期始業式を行いました。生徒は学期のスタートにふさわしい厳粛な雰囲気での式になりました。校長の式辞を真剣に受け止め、感染予防を徹底すると同時に最終学期に向けて、気持ちを引き締めている様子でした。三年生は進路実現が本格的になる時期です。教職員一同応援したいと思います。

1月17日(木)、西中校区地域学校保健委員会をオンライン開催しました。本年度実施したアンケート結果から、睡眠とインターネットやSNS等の利用が課題としてあがりました。御家庭でも生徒会が作成した西中スマホルール等を活用しながらこれらの利用の仕方について考え、よりよい睡眠がとれるように御協力をお願いします。

#### 【保護者の皆様へ】

○社会的に、新型コロナウイルス感染症が拡大しております。御家庭でも引き続き、基本的な感染対策に御協力をよろしくお願ひいたします。

#### 善泉賞メーター

現在 **1030** 枚発行  
 【推薦者内訳】  
 生徒882枚 教員138枚  
 市教委3枚 地域の方7枚

#### 『西中ブログ』日々、充実の更新!

◇本校の、日々の教育活動を紹介するブログです。こちらのQRコードからアクセスできますので、是非御覧ください!!

